2019.2.13 発行



かみきた山歩記（さんぽき） -008

林道新田線から行者還避難小屋

（行者還岳 1377ｍ）



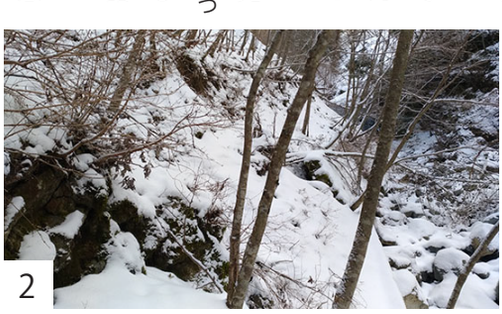


夏とは全く違った顔を見せる白く凍てついた奥駈道。 稜線は天川側からの風がかなり強く、 強烈な寒さである

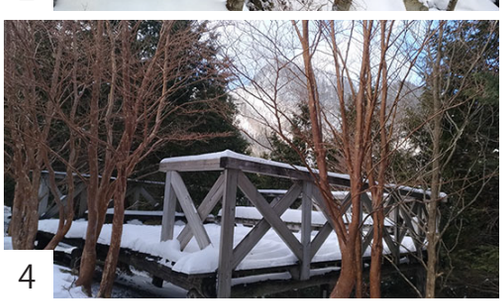
冬に奥駈道の稜線へ上がる登山口は、和佐又山ヒュッテから大普賢岳、天川村から弥山・八経ヶ岳、十津川や下北山村前鬼から釈迦ヶ岳などが一般的である。その中でも、天川村からのルートは比較的歩きやすく、登山口までの車道も入りやすいため冬の登山者はそちらへ集中しているのが現状である。大台ヶ原が冬期閉鎖し観光客がグッと減る今の時期に、登山者を呼び込めるいいルートがないかと考えたとき、ふと浮かんだのが天川村と上北山村を結んでいた生活古道である。

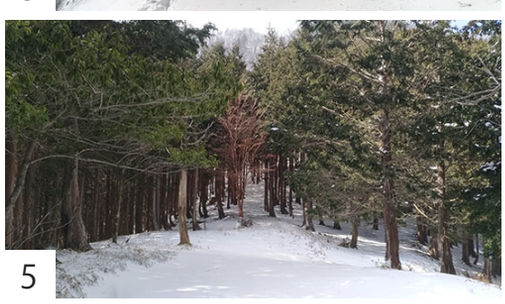
林道新田線の入り口に駐車。前日の雪でうっすらと雪が積もっている林道をのんびり1時間ほど歩くと終点に到着。そこから先は、急に冒険的なルートとなる。山の斜面を横切るように進み、堰堤が見えたら沢に向かって下り対岸へ渡る。渡った先の緩やかそうに見える（実際に上ると、結構急傾斜であった）尾根を上り詰めたところが行者還岳である。沢から1時間ほど道なき道をひたすら上ると、急に作業道と合流した。高度が上がるにつれて雪が結構深く足がズボズボとはまるので、ワカン（かんじき）が欲しくなる。立派な展望台や最近つけられた感じの道標などが途中にありビックリ。歩きだしてから3時間ほどで奥駈道稜線と合流。稜線はガスっており、西からの風がビュービュー吹いていた。とにかく寒い！深いところでは太もも辺りまで積もっている雪と格闘しながら30分ほど稜線歩きすると、やっと小屋へ到着。お昼は暖か


1


2


3


4


5

1：林道水太和佐又線と新田線の合流点に車を停めて歩き出す。 奥に見える奥駈道稜線はガスがかかっているがこちら側は風も穏やかで日差しもある 2：林道新田線の終点から谷沿いを少し進み、 右手に見えてくる堰堤を越えたら沢を渡り対岸の尾根をひたすら上がる 3：動物たちの元気そうな足跡があちこちに 4：立派な展望台が！木がなければ、 行者還岳や大普賢岳がよく見えるであろう 5：雪がたくさんあったら、 単なる作業道歩きもなかなか楽しい。 降りたてのフワフワ雪だった

いものを食べ、体を温める。食べ終わると早々に下山開始。帰りはワカンを装着したので、楽しいフワフワ雪上歩き♪ただ、相変わらずの強風で激寒…とにかく稜線からはとっとと退散した。下山には、天ヶ瀬川とナメゴ谷の合流点に延びる尾根を利用。下りは林道まで2時間半ほど。

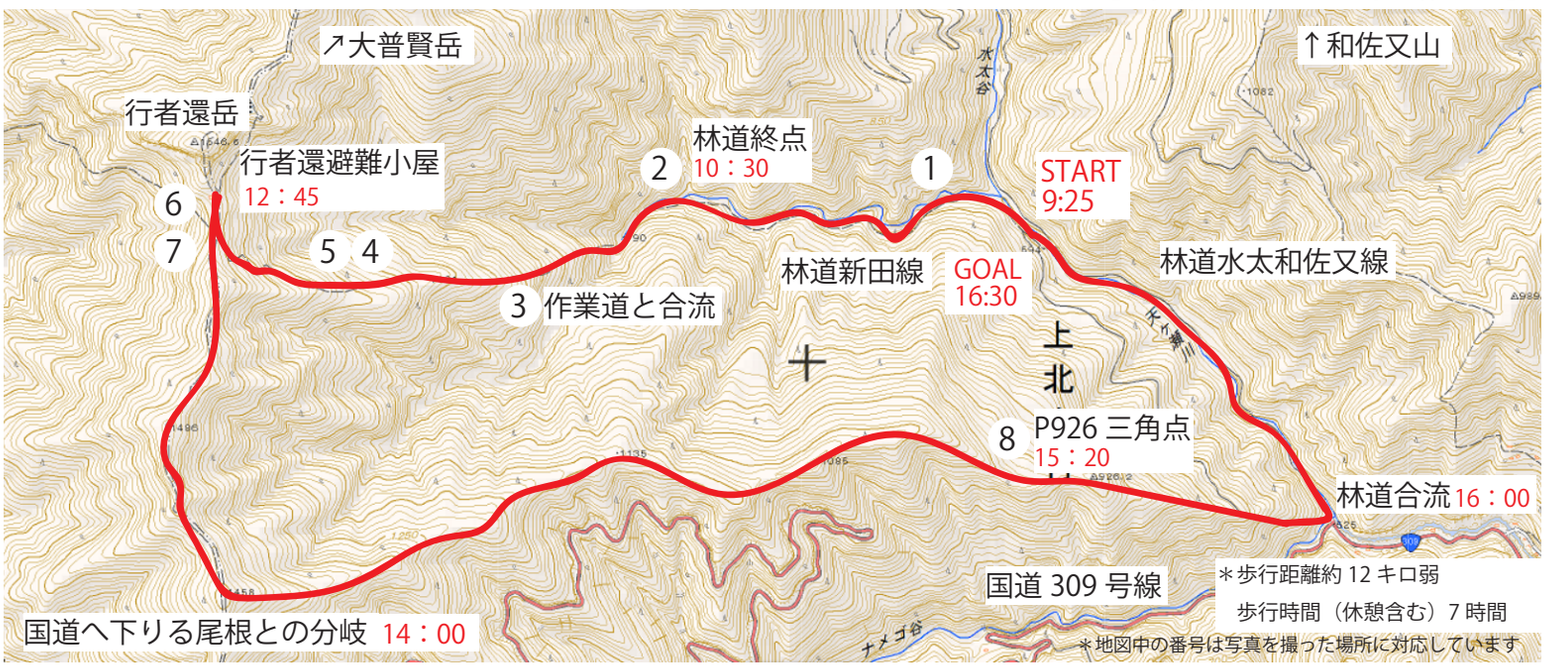
途中の林道新田線の終点から沢へ下る箇所や、対岸の尾根の登り口などをもう少し歩きやすく整備すれば、冬の奥駈道へ入るときに使える人気ルートとなりそうである。


6


7


8

6：行者還避難小屋の中に雪の吹き溜まりが。とびらが閉まっていても、すき間から雪が入り込むんだなぁ…
　外は強風で極寒だったので、小屋に入ってホッと一息…と思ったが、小屋の中ももれなく寒かった
7：本日のお昼ごはんは、マルタイラーメンのチゲ鍋風味。寒いときは辛い物に限る
8：下山時、前方には木々のすき間から大台ヶ原方面が見えた。雪はあまり多くないようだ



募集中です。

募集その①　北山三村フェスタ！開催決定☆出店者募集

いつまでも元気な村を！をテーマに、北山村・下北山村・上北山村が集まって出店・音楽イベントを行います。小物づくりが好きな方、お菓子やパン作りが得意な方などなど。得意なものを作って、お店を出しませんか？グループでの申し込みも OK ！せっかく作った作品たち。フェスタでみんなに自慢しちゃいましょう♪

募集その②　お家に眠ってる古い写真、見せてください！

何気なく撮った昔の村の風景。おじいちゃんおばあちゃんの若いころの写真。古い写真は「懐かしいなぁ…」だけではなく上北の歴史を残していくのに重要な資料となります。集めて残していく作業を少しずつ進めたいと思っていますので、
ご自宅に眠っている写真たちを掘り起こしてください！

募集その③
村内にあるあなたの お気に入りの巨木、教えてください！

何十年・百何年ものあいだ、ずーっと村と共に生きている巨木たち。山を歩いていると、たまにすごく大きな木を見つけてビックリすることがあります。そんな巨木たちをめぐるハイキングコースがあったら、楽しいだろうな…と思案中。
これは村一番の巨木だ！というのをご存知の方。ぜひぜひ教えてください☆

ご連絡は↓こちらまで
090-2064-4971（小谷）

【編集後記】

先日、索道遺構である「風折駅」を訪ねて歩きました。山中にひっそりと残っている索道駅を見つけたときは、かなり興奮しました。林業が盛んだったころの上北山村は、いったいどんな風だったんだろう…？この索道が実際に動いている姿を想像すると、わくわくしました。産業遺産や生活古道など、歴史的文化的に価値のあるものが、上北山（大きく見ると紀伊半島）の山々には眠っています。それらをきちんと残しつつ、上手に生かして観光とつなげられたら面白いのではないかな…と思います。

行政便り　上北山村通信「山へ散歩いこう」
発　　行　地域おこし協力隊　小谷雅美
発　　刊　偶数月第二水曜日
連 絡 先　090-2064-4971

＊小谷雅美協力隊員の山行記録は、ブログでも読めます
「山へ散歩いこう」で検索してみてください☆